



ニュースレター No. 39 2001年(平成13年)10月

NEWSLETTER

INTERNATIONAL LAKE ENVIRONMENT COMMITTEE FOUNDATION

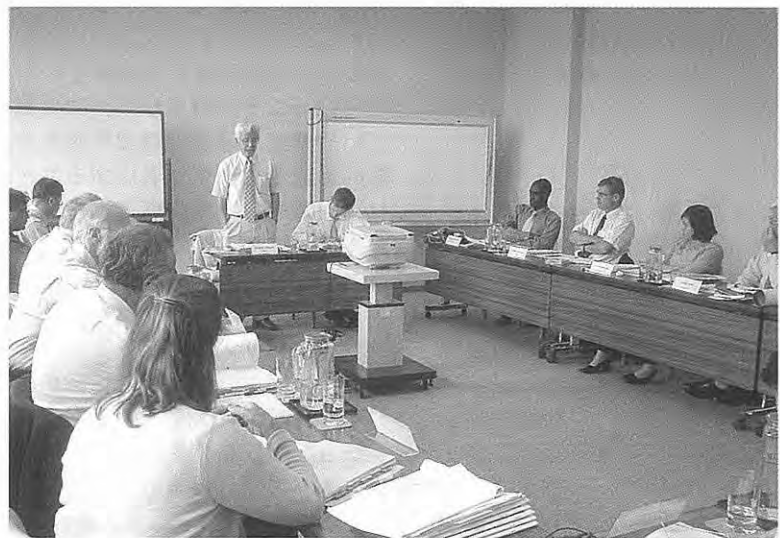
財団法人 国際湖沼環境委員会

— よりよい湖沼管理をめざして —

このニュースレターには英語版もあります。

世界湖沼ビジョンに向けて

湖沼は重要な存在である。しかし湖沼はその利用価値を損ねるような多くの重圧に直面している。—この話は今に始まったことではない。皮肉なことに、湖沼に真の価値があるからこそ、人々は流域で暮らし、働き、遊ぶために集まってくる。汚染や土地利用における変化は、必然的に湖沼に影響を与える重圧を招き、湖沼の価値を損ねている。リビングレイクスのエイトケン・クラーク氏は湖沼についてこう述べている。“我々は湖沼に手をかけすぎて死なせているのだ”何か行動をおこさなければならない。



活発な議論を繰り広げるワークショップ参加者たち

この“何か”が、ILEC主催で最近行われたワークショップ「世界の湖沼の将来：行動に向けての指針」の焦点となった。ワークショップは、本年9月4日～6日までの3日間ILECにて開催され、“世界湖沼ビジョン（仮名）”として知られるプロジェクトについて話をすすめるため、世界各地から22名が参加した。

過去数年はILECが何をすべきかと深く追求する時期でもあった。ILECは、世界の湖沼と貯水池の持

続可能な管理の促進を目指すという目的で1986年に設立された。この目的を遂行するため、ILECは過去現在を含む多くの世界湖沼会議（第9回は本年11月に開催）に開催組織として関わり、世界の湖沼データブックの編集、湖沼管理におけるガイドラインブックの作成、科学ジャーナル誌の発行および若い湖沼管理者を育てるための研修実施などを行ってきた。

このような成果にもかかわらず、世界のほとんどの湖沼が持続不可

能な状態での管理のままである。これまでのILECの取り組みは、持続可能な湖沼管理の指針などをトップレベルの意思決定者に伝えていくという点が欠けていた。“ビジョン”はこれを実践する効果的な機会である。世界湖沼ビジョンの発展を促進させることは、世界の湖沼と貯水池の持続可能な管理という我々の目標達成への道のりの更なる一歩となる。ワークショップの詳細、結果報告ならびにこれに関する意見募集などは、次頁に掲載しています。

今回の話題

- 世界湖沼ビジョンに向けて
- 第9回世界湖沼会議に向けて
- UNEP-IETC/滋賀県/ILEC 共同シンポジウム
- 国際水環境フォーラム
- 湖沼会議支援写真展
- UNUワークショップ
- 第6回リビングレイクス国際会議
- 世界の湖沼－ビクトリア湖
- 第11回生態学琵琶湖賞
- 第2回環境教育研修

9月にILECで行われたワークショップの結論の主な概要は次のとおりです。

なぜビジョンが必要なのか？

世界銀行のラフィック・ヒルジ氏は、湖沼は人類にとって限らない価値をもつが、我々湖沼管理者はこのような価値を意思決定者に明確に伝えることを実施してこなかったと最初の段階から明らかにした。ILECのトーマス・バラトール氏は、世界水ビジョン(WWV)で湖沼問題が重要視されなかったことに落胆したことを述べ、現状のWWVは湖沼管理の適切な指針には十分ではないことを強調した。世界規模のビジョンが、持続可能な湖沼管理を促進するために次に求められる施策であることに同意された。

ビジョンは何を意味するのか？

ビジョンは、長期にわたる目標および達成に向けての計画を具体化するものである。人の頭の中で描けるもの(自分の家族のための計画など)でもあり、公式の書面(世界水ビジョンと実践枠組み)としても作成される。ビジョンは、あらゆる意図をもつ。湖沼に関しては、2つの異なる評価基準が重要となる。まず、琵琶湖の“マザーレイク21”のような個々の湖沼に対するビジョンである。このようなビジョンは、定められた湖沼の長期管理計画を詳細にするものである。次に、あらゆる湖

沼についての中心的、世界的規模のビジョンである。ILECでは、これを“世界湖沼ビジョン(仮称)”と呼んでいる。

これは、持続可能な湖沼管理のための原則を述べ、国際的な議論の場において湖沼の評価を高く位置づけることを目的に策定される。また、各湖沼ビジョンの考案の指針となると同時に、既存の湖沼ビジョンについても紹介されます。同ビジョンの概要は最後に記してあります。

ビジョンは誰のためのものか？

世界湖沼ビジョン(WLV)は、広い意味で2者のためのものである。まず、個々の湖沼管理の責任者が、個別の湖沼ビジョンを考案する指針としてWLVを用いることが望ましい。次に期待しているのは、環境分野で計画を行う国際的組織をターゲットにすることにより、国際的な議論の場で湖沼プロフィールが取り上げられることである。

誰が展開していくのか？

ワークショップ参加者からは、ILECが世界湖沼ビジョン策定の指揮を取っていくべきだという強い要望が出された。ビジョンが正当化されるためには、幅広い人々の関与が求められる。すなわち、参加が秘けつとなる。最終的には、あらゆる人々が策定プロセスに貢献しWLVを作りあげていくことになる。草案および編集はILECが行う。投稿に関

する詳細は、この記事の最後に掲載してあります。

いつ？

世界湖沼ビジョンにつながるプロセスは、2003年3月に京都で開催される第3回世界水フォーラムで完結される予定である。それまで、世界湖沼会議(2001年11月日本で開催)、ダブリン+10(2001年12月ボンで開催)、ストックホルム水シンポジウム(2002年8月ストックホルムで開催)およびリオ+10(2002年9月南アフリカで開催)など様々な国際イベントに必要な情報・アイデアが収集される。また、電子フォーラムでも今から2003年まで情報収集が展開される。

情報・アイデアの投稿募集

ここまで目を通していただいた方々は、おそらく世界湖沼ビジョンに興味をもたれたことと思います。このプロセスへ情報・アイデアを投稿を希望される方は、ぜひILECのホームページ www.ilec.or.jp にアクセスしてみてください。WLVのドラフト、ポジションペーパーおよび9月に行われたワークショップの議事録もご覧になれます。また、WLVを取り上げた様々な電子フォーラムへのリンクもあります。Eメール tom@ilec.or.jp までご意見をお送りください。

世界湖沼ビジョンの概要

1. 明確なビジョンをもつ声明書：リビングレイクスのエイトケン・クラーク氏は、WLVは人々を惹きつける声明書が必要であると主張した。
2. 湖沼の価値：ラフィック・ヒルジ氏は、途上国に湖沼の価値および不十分な管理で失われた価値を示す方法を見つけていなければならないと述べた。トーマス・バラトール氏は、世界中の人々から湖沼の価値を示す事例を引用する提案をした。
3. 湖沼への圧迫とその影響：湖沼が直面している問題については多く記載されている。我々は、このような問題を引き起こした原因についても注目しなければならない。
4. 湖沼管理のための原則：GWPのピョン・グテルスタム氏は、“栄養物は、資源であって汚染物質ではない” というような“全世界的な”原則を確立することをWLVに求めた。レイクネットのリサ・ポーレ氏は、“参加”の必要性を強調した。優れた統治管理と同時に前進的アプローチについても述べられた。
5. 原則の実施例：上記の原則は事例を通して示される。
6. 行動計画：計画なしのビジョンは、幻想である。

ビジョン策定の全体として、湖沼の重要性および持続可能な管理の原則について幅広い人々に伝達できるように分かりやすい英語で50~100ページの文書として作成することが望まれる。

